



『まるごと』(初級 1A2) <かつどう> 教え方のポイント

1. 授業の構成の目安 (120 分の場合)

①②… 音声を聞く回数

●トピックの扉ページ (5 分程度)
<ul style="list-style-type: none"> ・写真でトピックのイメージをつかむ ・学習目標 Can-do の確認 (自分の身の回りで使えそうな場面を思い出す)
●語彙導入ページ (15 分程度)
<p>1) 語彙と同時に場面の導入ともなっている。導入されている語彙のトピックとしてのまとまりを意識する。</p> <p>2) 音声と意味を結びつけて、理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ CD を聞く前に、学習者に写真と文字を見る時間を 1 分ぐらい与える。 ・ CD で文を聞く ① ・ CD を途中で切りながら、教師による音声提示+写真+模倣 ② ・ CD で文を聞く ③ (指さし確認や音声による模倣をする) ・ 新しい語の練習<第 3 課の場合> <ul style="list-style-type: none"> 例 1 T/S: (~月) / (季節の事物の名称: 写真を見せる) S: (日本の季節名)、 例 2 T/S: (季節名) S: (形容詞) <p>3) 導入された語彙を自分自身の生活に関連付けて考える。自分に必要な語彙を選ぶ。</p>
●活動のページ (80 分程度)
<p>1) 場面設定確認 (どんな人が、どんなところで、何のために話しているか。その人たちはどんな関係か、<u>人間関係を構築するための発話がどこにあるか</u>、など。)</p> <p>2) 聞きましょう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 質問と手順確認 ・ キューになっていることばやイラストの確認 ・ CD を聞く①② → 質問 (1) に回答 ・ CD を聞く③ (④) → 質問 (2) に回答 <p>場面、語彙、既有知識を使って質問に答える (タスクをする)。聞いて気づくことを重視するので、言語構造を事前に教えることはしない。</p> <p>3) 発見</p> <p>例文を一つ一つ見るときに、簡単に言う程度でよい。ポイントは、難しく見せないこと。教師は文法を説明しすぎないこと。</p> <p>「聞きましょう→発見」(帰納的学習) の手順の例 (「聞きましょう」でインプットされたとみなして)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ルール確認 (説明を聞く)</div> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キーフレーズ (例文) を見て、言語構造上のポイントを説明する。 <p>「3 月ごろあたたかくなります。はるになります。」</p>



ポイント 1 「なります」という表現を使っている

ポイント 2 「なります」を使うためにその前に形容詞と名詞のキーワードがある

ポイント 3 キーワードは形を変えている（活用変化や助詞を伴っている）

練習して理解

- ・活用の確認（名詞の場合、イ形容詞の場合）

活用形のボックスで提示した以外に、ほかの語を加える必要はない。活動編の「発見」では、基本的に当該課で必要な語だけを扱う。もし加える場合は、同じトピック 場面で使えるものに限定すること。

例 第3課（あたたかい、あつい、さむい、すずしい）+ むしあつい

- ・練習問題をする。活用形のボックスの中に答えがあるので、1人でする。

音声で再確認

- ・発見した構文を意識して、CDをもう一度聞く。
- ・ペアで答えチェック後、全体でチェック。

※音声ファイル（BGM有とBGM無し）の使い方等については別ファイル参照。

4) ペアで話しましょう

ここですぐに暗記する必要はなく、本を見ながら言えればよい。少しまとまった談話の場合は、準備をしてから話す。楕円形の吹き出し内の表現は、会話の流れによって使えるオプションを示している。表面的なやりとりにならないように注意しながら、人間関係が構築できるようなやりとりを、日本語で言語的・非言語的に表す技能を身につける。

●生活と文化（15分程度）

この活動は「写真を見る→知る→興味を持つ→行動する」という流れを想定している。学習者にとって理解が楽な言語（母語や媒介語）が必要となるので、教師だけでは対応できない場合は、それができる人（ほかの教師やスタッフ、上級学習者など）に頼む。

- ・学習者は、写真を見て、日本社会で普通に見かけるコトやモノについて知る。
- ・自分が気づいたことをほかの人と話す。それによって、自分の見方をふりかえったり、他者の見方を受け入れたりすることができると思う。
- ・自分なりの興味を持って実際に行動につなげる（例えばインターネットで調べる、日本料理店に行く、facebookで日本人の友人を作るなど）。行動することで、文化という抽象的なものに実感を持てるようになり、日本人も自分たちと同様一人ひとりの個人であること、日本社会も複雑で多様で可変性に富んだ社会だと認識できるようになることを期待



している。

- ・教師は、学習者が接することのできる日本文化の情報を提供したり、学習者同士の情報共有の場を促進したり、気づきを深める助けをしたりする役割が期待される。

●Cando チェック (5分程度)

巻末のチェックリストを使って、その日の学習の達成度を★で自己評価し、母語でコメント(感想)を書く。

●「V-ています」と「V-てます」の表記について

本書活動編では、話し言葉をベースにして学習を進めるため、会話のスキriptや Can-do 会話など音声化する部分は縮約形をそのまま「V-てます」と表記している。一方で、指示文、Can-do 会話の中でもモノローグ的になっているもの、「発見」での例文では、「V-ています」または「V-て (い) ます」と表記している。



●各課のポイント

トピック 1 わたしのかぞく

新しく出会った人とお互いのことを話して、人間関係をつくるときの交流会話。

第1課 東京にすんでいます

①わたしのかぞく・しんせき

家族と親戚（自分と他者）の語彙導入。「家族は7人です。父、母…私です」という「Nです」（名詞文）を使用していることに注意。また、「うちの家族」と言ったり、最後に「私」と言ったり、途中で言ったり、教室外の自然で多様な日本語に近いインプットを聞けるように配慮した。

②わたしたちは 東京に すんでいます

「Can-do 1 家族や自分がどこに住んでいるか、何をしているか、簡単に話します。」

きょうだいや親せきが海外（または国内のどこか）にいて、facebook などにつながっている現代社会を反映した場面設定。同じような背景を持つ学習者は自分のことを話せるとよい。③の3枚の写真は学習者が自分の家族構成を話すための刺激剤である。必要があれば、ペットや導入した語以外の親せきの名称などを教えてもよい。

③わたしたちは 日本語で 話します

「Can-do 2 家族や友だちと何語で話すか言います」

現代社会では Facebook / Skype でつながる家族や親せきが、いろいろな言語でコミュニケーションをはかっているのが珍しくないため、そのような場面設定とした。学習者がお互いの多様な言語能力をプラスにとらえられるようにしたい。入門（A1）とは違い、②はモノログとなっているので、適当な準備時間を与えること。自分でまとまった話ができるかどうかのポイント。

第2課 しゅみはクラシックを聞くことです

①すきなこと・しゅみ

趣味の活動の語彙を、作るタイプ、見るタイプ、集めるタイプのほか、「Nです」で言えるもので示した。自分の趣味が言え、相手の趣味がイラストを見て理解できればよく、語彙をすべて暗記する必要はない。

②しゅみは クラシックを 聞くことです

「Can-do 3 趣味について話します」

① は音声を聞く前に4人の趣味を推測させてもよい（のださんのしゅみは〇〇です）。



② では辞書形という名称を使わず、学習者に見えている形（「V-る」）を提示している。「趣味は、V ことです」のほかに、「ひまなとき よく V します」もとりあげた。趣味とまでは言えないが、最近やっていることを話すときに便利な表現で、成人の学習者向きとも言える。もう一度音声聞いて、「～とき」に注意を向けさせ、「学生のととき」、「ひまなとき」のルールを発見させる。

③ともだちに なりましょう。

「Can-do 4 自己紹介のサイトの短いコメントを読みます」

「Can-do 5 自己紹介の サイトの 短い コメントを書きます」

Youtube のような動画共有サイトで日本語で自己紹介している動画を見てコメントを書き込むという場面設定。できれば動画共有サイトで「日本語で自己紹介」と検索して見るように促し、実際に日本語を使用する機会を増やす。

動画共有サイトを見たことがあるか問いかけた後、音声（田中さんの自己紹介）を聞いて、コメントを書かせる。自分なりの反応をすることが大切なので、どのようなコメントでもよい。日本語で書いても、母語と日本語の併記でもよい。書いたコメントをクラスで共有するとよい。なお、イラスト内の「日本語で自己紹介」や「超かわいい」は authenticity（本物らしさ）のためにつけたものなので、扱いは学習者の興味に応じて自由に。

<生活と文化：つまとおっとのやくわり>

写真を見て、自分の身のまわりと同じだという人もいるだろうし、日本では家事労働は女性の役割だと思いこんでいたが、最近はどうでもないのかという人もいるだろう。日本人の生活様式は一律ではないし、可変的であることを話題にするよい材料となる。

トピック2 きせつとてんき

話をしている相手やその人の国について知るために、話題にしやすい季節をとりあげて交流会話をする。4課ではあいさつの表現として、天気について話す。なぜ天気のことか、あいさつになるのか、その背景に日本の稲作文化があることなどにもふれるとよい。

第3課 日本はいま、はるです

①きせつ

日本の季節のことばの導入。写真を通して日本の自然と人々の様子を知る。うぐいす、せみ、こおろぎ、除夜の鐘は音声あり。視覚、聴覚の両方から日本の季節感を楽しんでほしい。また、自然と結びついた暮らしや美意識、季節のことばを使って作る俳句というものがあることなどにも言及できるとよいだろう。なお、写真についていることばは暗記する必要はない。



②いま、どんな きせつですか

「Can-do 6 季節の変化について簡単に話します」

日本人の知り合いや友人と交流するための会話。例えば、パーティーなどでお茶を飲みながら、いっしょに食事をしながらの会話。[1]で聞く質問は「どのきせつですか」ではなく、「どんなきせつですか」。日本にどんな季節があるか知識がない場合、「どの」とは言えない。答えるほうは、季節の名前とその様子を話す。使用文型は変化を表す表現で、ここでは気温と季節の変化をイ形容詞と名詞で表現する。例文二つと活用形のボックスをよく見て、ルールを見出してほしい。[3]では、まず自分の国の季節を書いて、会話に利用すること。また、広い国の場合は寒い地方や温かい地方など気候の違う地域に分けて、その情報を使うと良い。

③すきな きせつは いつですか

「Can-do 7 好きな季節とその理由を簡単に話します」

②の交流会話の続き。好きな季節とその理由を知ることで、相手の内面を垣間見たり、自分との共通点を見出したりできるだろう。[1]では、好きな季節だけでなく、その理由をよく聞くようにする。イラストがそのヒント。文法は「の」による名詞化で、ここでは形容詞の名詞化のみ扱う。また、否定表現は、直接的な「～のが きれいです」よりむしろ「～のが にがてです」のほうが大人が使う表現としては適当と思われる。もう 1 つの文法は、理由の「から」。例文をよく見て、文末に「から」をつけてみる。「どうして～ですか」との組み合わせで使用している点に注意。[3]は会話の後、グループやクラスで好きな季節とその理由を共有すると、お互いのことがわかって、おもしろいだろう。「四季の歌」などを聞いたり、歌ったりしても楽しい。

第4課 いいてんきですね

①てんき

日本では「はれ」が「いいてんき」。学習者の国ではどうだろうか。気温を表す形容詞は第3課で導入したものも確認する。余裕があれば、台風、洪水、つなみ、地震など自然災害を表す語を紹介してもよい。世界の天気は、都市名と天気を聞いていく。本物のサイトで現在の世界中の天気を見てもおもしろい。また、このイラストを利用してワークシートを作り、ペアワークをさせてもよい。

②いい てんきですね

「Can-do 8 天気について話して挨拶をします」

知り合いに会ったときに交わす、典型的な挨拶表現。[1]の音声を聞く前にイラストを見ておく。文法は非過去形と過去形。「きのう」、「せんしゅう」、など時を表すことばをヒント



に練習する。また、文末の「ね」は相手に共感を求める「ね」。相手が自分と同じ経験しているはずだという前提のもとに使われる。会話練習は学習者の町の天気についても話すとよいが、バリエーションを持たせにくいので、p42のイラストを利用して行ってもよい。単純なので、音声面など、ふだんケアしにくい点にも注意するチャンス。

③いま、あめが ふっています

「Can-do 9 電話の会話のはじめに天気について話します」

① は朝のテレビ番組の全国の天気の中継を聞くイメージ。北（北海道、札幌）、南（九州、福岡）、日本海側（富山）、太平洋側（東京）の4か所を聞く。日本地図上の都市名を確認してから聞くこと。②では文型「Vています」は、今、目の前に見えることを表すと説明する。今日に見えることは、動画的イメージ（雨が降っています／風が吹いています：進行中の動作）もあれば、静止画的イメージ（晴れています／雪がつもっています／くもっています：結果の状態）もある。③は東京の田中さんが、世界中の友人に連絡をとるという場面。Skypeのようなインターネットを利用した通信手段を場面にとりこんでみた。音声を聞いたら、「もしもし」「場所（東京）の人名（田中）です」「ひさしぶりです」「こっち／そっち」など、遠くにいる人と、久しぶりに電話で話すときに使う表現を確認して、④の電話会話の練習。会話練習にはp40の世界地図を利用して、自分がいる国を決めるとよい。注意したいのは、この会話があくまでも会話全体の冒頭にある挨拶部分であること。練習は必要ないが、これだけで電話を切るのではなく、この後、本題に入ることを忘れないでほしい。A2レベルでは会話の本題まで日本語で話すことは難しいが、あいさつの部分は天気を話題にそれが可能である。

<生活と文化：「すずしい」なつ>

厳しい季節を快適に過ごす工夫を写真やイラストで見る。ここでは日本の高温多湿な夏を気持ちよく過ごすための、昔からの工夫を見てみる。五感を使って涼しさを演出するこれらの工夫は、電気を使わない工夫でもあり、トピック8との関連性もある。学習者には、なぜこのような工夫が涼しさにつながるのか考えてみてほしい。例えば、日本では夏になるとお化け屋敷や幽霊話のようなこわいものが登場するが、なぜなのか学習者なりに考えてみる（例えば こわい→汗をかく→ひんやりする→涼しくなる、など）。そして、学習者の国では厳しい季節を過ごすためにどんなことをしているか、話し合う。

トピック3 わたしのまち

自分の町に来た人に、観光したり短期間生活したりするために役に立つ情報を、地図を見ながら提供する場面である。自分の町にあるにぎやかなところ、おもしろいところ、歴史のあるところなどいろいろ考えてほしい。実用的な会話でもあり、その町に親近感を持つ



でもらうための交流的な会話でもある。ここでは特に東京を取り上げてあるので、東京について知ることにもできる。日本への旅行を計画している学習者には旅行準備としても役立つことだろう。

第5課 このこうえんはひろくて、きれいです

①東京

p48-49の地図と写真を見ながら音声を聞き、「どこか」「何があるか」「どんなところか」の3つの情報を確認し、音声が続いて言ってみる。普段、地図をあまり見ない学習者もいるので、聞く前に地図を見る時間をとる。また、学習者の町なら、地図にあるところと同じような特徴を持つところがどこかを問いかけて、動機づけをする。

②にぎやかで、たのしいですよ

「Can-do 10 地図を見ながら自分の町のおすすめの場所や地域について友だちに言います」

自分の町に来た外国人の友人に町について紹介するという場面。

①は音声を聞く前にイラストを見て、4つの町がどんなところか確認する。p48-49に同じ町の写真がある。公園を見て「広い」と言うか「大きい」と言うかは主観によるので、どのような形容詞や表現が思い浮かぶか話す（日本語でも母語でもよい）。③は自分の町の地図（来たばかりの外国人にもわかりやすい尺度の地図）を準備し、日本人の友人に自分の町を紹介するという場面を設定して短いやりとりをする。

③おしゃれだけど、ちょっと たかいですよ

「Can-do 11 地図を見ながら、友だちが興味を持っているところがどんなところか、気をつけることは何か、言います」

②と同じ場面であるが、「～けど」を使って、ある場所について気をつけたほうがいいことを相手に言う。②のポイントとして、ここで練習する「～けど」の文は、2つめの形容詞に話者の態度や意見が表れていることに注意してほしい。

第6課 まっすぐ行ってください

①まちの とおり

「Can-do 12 近くの場所への行き方を言います」

今いるところから見える有名な建物や大きな通りなどを目印に、行き方を教える実用的な会話。p55にある「あなたのまちのとおりには何がありますか」という問いかけや2枚の写真を使って、自分の町で目印になるようなものを考えさせるとよい。

②1つめじゃなくて、2つめです



「Can-do 13 相手が聞き間違えたことを直します」

町で道を聞いているときに、聞きとりにくい、あるいは間違いやすい部分を確認したり訂正したりして、確実に行き方を理解するための会話。相手の説明を繰り返すなどの、理解確認のストラテジーを意識的に使えるようにしたい。

③しろくて 大きい たてものが 見えます

「Can-do 14 遠くに見える建物の特徴を言います」

道を聞かれたときに、目印となるような建物の特徴（色や形）を言う。「あの赤くて高い建物は何ですか」のように自分からも発話できるようにしたい。①は音声を聞く前にイラストを見て、形と色を表す言葉の意味を確認する。次に a～d の建物のイラストを見て、どのようなことばや表現が使われるか、推測してみる。自分の町にある建物について言えるようになるために、教室の外に出て、学習者どうしても実際にこのような会話を練習してみるとよいだろう。

<生活と文化：いろいろな まちなみ>

特徴のある通りの写真を 3 枚示した。自分の町にも特徴のある町並みがあるか考える。自分が好きな町並み、人に紹介したい町並みを考える。これらのことを通して、自分の町の特徴を再認識する。

神田：古書店街、神田は本の町として有名。

アメ横：上野駅近くにある、商店街。食料品や日用品が安いので、大勢の客でにぎわう。

川越：東京近郊（埼玉県）にある町で、江戸時代（1603～1868）の町並みを残している。

トピック 4 でかける

友人や知り合いと待ち合わせの約束や、町に不慣れな人を外出にさそうなど、実用的かつ交流のきっかけづくりになる会話場面。

第 7 課 10 時でもいいですか

①まちあわせ

トピック関連語彙を確認し、その後写真を見て、どんな場所で待ち合わせをするか話し合う。「生活と文化」も待ち合わせ場所をテーマにしている。

②10時に ホテルの ロビーは どうですか

「Can-do 15 友だちと待ち合わせの時間と場所について話します」

相手の都合に配慮しながら、待ち合わせの場所や時間を相談して決める場面。時間や場所の確認（「～ですね」）、気持ちの表明（「楽しみです」）、都合が悪いときの言い方（「あのう、



4時半は、ちょっと・・・)、都合が悪く別の提案を受け入れてもらったときの発話（「すみません」）など、相手に配慮した発話に注目させたい。

③ちょっと おくれます

「Can-do 16 待ち合わせに遅れるというEメールを読みます」

待ち合わせに遅れるというメールを携帯電話で受け取って読むという場面設定。簡単なやりとりはメールで行われることが多い現代社会を反映させた。待ち合わせの時間に遅れる理由は、国や地域によってさまざまなので、学習者がよく使う表現を学ぶ。遅れるというメールを受け取った側から返す表現（「だいじょうぶです」など）にも注意すること。

④みちに まよって…

「Can-do 17 遅れた理由を言ってあやまります」

待ち合わせの時間に遅れた理由を簡単に説明し、あやまるという場面。

①は音声を聞く前に、4枚のイラスト（65ページのイラストと同じ）を見て、意味を確認する。音声はまず遅れたかどうかを聞き、遅れた場合はその理由を答える。②では原因・理由を表す「V-て」「で」を取り上げる。③では、遅れてきた人への配慮を表す発話（私も今来ました、大丈夫ですよ、大変ですね）にも注目させる。待ち合わせに遅れるという状況で、謝るかどうかは文化によって違う。日本人のコミュニケーションとしては、このような場合相手に迷惑をかけたのだから謝るのが常識的だとされている。この点については「生活と文化」のときにクラスで話すとおもしろいだろう。

第8課 もうやけいを見に行きましたか

自分の町に短期間滞在している人や、赴任や留学で来たばかりの人に、おすすめの場所や、話題になっている場所を紹介し、案内を申し出、いっしょに出かけるという一連の場面。その土地に慣れていない人に、地元の者として親切な気持ちで話しかける。

①おすすめの ばしょ

地元をよく知らない人にすすめたい場所を表す語彙を導入。自分なら、どこに行きたいか写真の中から選んで話す。また、自分の町のおすすめの場所について話す。

②もう 行きましたか

「Can-do 18 おすすめの場所に友だちをさそいます／さそいにこたえます」

地元のおすすめの場所や、今話題になっている場所に行ったかどうかを相手にたずね、まだならさそう。「さそう」と言っても、ここでは地元を知らない人に対する善意から案内を申し出るといふ行為である。さそわれた側は申し出を受ける場合と都合がつかず断る場合の両方がある。②に示すように、「見に行きませんか」は、「見に行きます」（目的の「～に」）



と「行きませんか」（さそいの表現）の 2 つの文法項目が含まれている。入門 A1 かつどう（第 12 課）では定型表現として「見に行きます／見に行きませんか」が提示されたが、ここで使用する動詞を増やすことになる。説明はできるだけ簡単に。□3 の会話練習は、「行きましたか」という質問に対して、「もう行った」場合と「まだ行っていない場合」、さらに後者については、さそわれて受ける場合と断る場合がある。会話の流れを確認すること。

③ちょっと 水を 買いたいんですが…

「Can-do 19 友だちに寄り道をしたと言います」

いっしょに行動しているときに、片方の人が予定外のことや寄り道をしたことを同行者に言う場面。p 71 の写真／イラスト(a~d) の意図するところを、□1 の音声を聞く前に確認する。c のイラストは雑誌で、行きたい店の記事が赤で囲んである。寄り道をするのは、食事の前か後の場合に限って提示した。「○○たいです」の文法は既出なので、ここで思い出させる。事情や状況を説明するときには、「～たいです」と「ん」を入れる。

<生活と文化： まちあわせ>

写真の渋谷駅や東京駅には写真のような待ち合わせ場所がある。「ハチ公」とは犬の名前。主人が亡くなってからも、渋谷駅に迎えに行きつづけた忠犬として知られている。自分の国にも写真のような待ち合わせ場所があるか話し合う。p63 の写真も利用できる。待ち合わせ以外の集合方法や、どのぐらいの時間待てるかということも、話し合うとおもしろい。

トピック 5 がいこくごとがいこくぶんか

学習者自身と外国語や外国の文化とのかかわりについて話す交流会話。クラスの全員が共有できるトピックとして活用してほしい。

第 9 課 日本語ははつおんがかんたんです

①がいこくごの べんきょう

複数の単語を組み合わせた文を聞いて、ことばを指さしながら、イラストと文から意味を考える。必要に応じて教師が媒介語で確認する。理解編 p87 には教育制度の図もある。

②いままでに どんな がいこくごを べんきょうしましたか

「Can-do 20 いつ、何語を勉強したか、話します」

「Can-do 21 今までに勉強した外国語について話します」

お互いの外国語学習経験について話したり、知っている言語を比較したりする交流会話。

□1 は音声を聞く前にイラストの人物と学んだ外国語名を確認する。2 つのタスクとその答えの選択肢の場所も確認する。(2) は少し複雑なので、(1) 「いつ」をやりながら全体を聞



いて理解した後で、もう1～2度音声を聞くとよい。②では、言語の特徴を言うために使える文型を紹介する。(2)では、「～が」の部分が動詞を名詞化する「辞書形+の」になることを発見、確認する。(なお第3課では形容詞の名詞化を学習している。)③「ペアで話しましょう」は、話す前に自分の外国語学習経験について考える時間をとる。内容的には一般論というよりも、あくまでも個人の学習経験に基づくコメントとして話せばよい。学習者がお互いの経験を話して、知り合うこと、交流している意識を忘れないようにしたい。同じ言語でも、人によってコメントが違うことも楽しめる。とよい。

③わたしの がいこくごリスト

「Can-do 22 いつ、何語を勉強したか、記録を書きます」

自分の外国語学習経験を記録し、ポートフォリオに保管する。p74 にない言語の書き方は必要に応じて教師が教える。このリストはクラス全体で共有して互いを理解するのに使ってもよい。②の③の会話練習の準備として書いてもよいだろう。

④そのじしょ、かしてくださいませんか

「Can-do 23 外国語や外国語の勉強について困ったとき、だれかに頼みます／頼まれてこたえます」

日本語使用場面や学習場面で、具体的な事柄について依頼をする実用会話。①はイラストとタスクの内容を確認してから、音声を聞く。まず(1)に答え、(2)女性が男性の依頼を受けたかどうか注目して再度聞く。依頼するとき、どんな表現が使われているか意識して聞くこと。②「発見」では、「～てくださいませんか」は依頼表現の中でもとても丁寧な表現であることを学習者に説明すること。③は身近なものの貸し借りの会話をする。

第10課 いつか日本に行きたいです

①せいかつの なかの がいこくぶんか

ここでは、私たちはだれもが日常生活の中で外国のものに触れていることがわかるようにしたい。国名と活動の表現を組み合わせ、一つぐらい文を作らせてもよい。自分だけでなく家族や友人のこともよい。「メキシコ料理を食べる」のは、「メキシコ料理が好きだ、おいしいと思う」ということだが、そこから「メキシコの文化に触れている」というようにも意識してもらいたい。

②つきに 2かいぐらい 日本りょうりを食べます

「Can-do 24 外国の文化と自分との関わりについて話します」

外国文化との接触の習慣や経験、希望を話す交流会話。①(1)の国名は日本語以外で書いてもよい。(2)(3)は数が多いので、繰り返し聞かせる。②「発見」(1)動詞はp80-81に出ているものだけでよい。職業名は外国と関わるものに限る。「いつか」と「しょうらい」



の違いは、前者は実現するかどうかわからないもの、後者は実現を意識しているもの。適当な訳があれば母語で示す。(2)は、会話をもう一度聞いて音声で確認する。ここでは週、月、年だけを扱う。

③は負担なくある程度の量を話せるように、事前に話す準備をする。聞き手は自分が興味を持ったことに質問やコメントをして、主体的に会話に参加することも練習する。発話モデルの中の「しょうらい日本にりゅうがくしたいです。」は、「しょうらい」を「いつか」に変えてもよい。(「いつか日本にりゅうがくしたいです。」)

③いっしょに 行きましょうか

「Can-do 25 困っている人に助けを申し出ます／申し出を受けます」

旅行者などの町に不案内な人が困っているときに助けを申し出たり、申し出を受けたりする実用会話。①ではまず、学習者自身がことばや文化がわからないところに行き何に困ったか思い出し、自分の国で外国人が困るとすればそれはどんな場面かを考える。音声を聞く前に、場面と内容を確認する。助ける方法には相手と行動を「いっしょに」する方法と「かわりに」する方法がある。③「ペアで話しましょう」では、このレベルでは困っている内容をことばで伝えるのは難しいので、会話例（見れば状況がわかる範囲）以外に広げなくてよい。助けがいらぬときは「だいじょうぶです」と言えばよい。「すみません。ありがとうございます」の「すみません」はお礼として使われることが多い。「すみません」か「ありがとうございます」のどちらか一方だけでもよい。

④マレーシアリョウリは どこですか

「Can-do 26 イベントのプログラムを読みます」

③で行き方を人に教えてもらったアリさんが、到着した先は国際交流まつり。ここでは、日本各地で行われるようになった国際交流まつりのプログラムを読んで（見て）、希望の場所に行くための情報を得る。情報が得られればよく、出ている語を1つ1つ教える必要はない。イベントのプログラムや建て物のフロアマップの形式などの一般常識を応用して読み取る。

<生活と文化： がいこくぶんかを たのしむ>

写真は、日本で外国文化に触れることのできる市民講座やカルチャーセンターなどの教室風景。自国にも同様のものがあるか、参加したことがあるか、講師や学習者はどんな人か比較してみる。自分の生活が多文化環境にあることに気づき、異文化接触（交流）は「楽しい」、「生活を豊かにしている」と思えるとよい。

トピック6 そとで食べる

ピクニックに持っていく食べ物や分担について相談する実用的な会話と、ピクニックでい



っしょに食べながら話す交流的な会話を学ぶ。クラスでピクニックを企画すれば、実際使用の機会になる。

第11課 なにをもっていきますか

①ピクニックの おべんとう

ピクニックに何を持っていくか、写真を見て確認する。カテゴリー（例：飲み物、おかし）と具体物（例：お茶、チョコレート）の違いに気づかせる。また、ピクニックに持っていくものの文化的な違いなどを話すと面白い。「ほかのもの」にあるものは、そのヒントになるだろう。

②食べものは どうしますか

「Can-do 27 ピクニックに持っていくものについて話します」

「Can-do 28 ピクニックにだれが何を持っていくか、メモを書きます」

ピクニックに持っていくものの分担を決める場面。メモとりも重要な活動。①の選択肢は前のページにあるので注意。音声には「わあ、楽しみ！」のように女性的な発話があるので、とくに男性の学習者に配慮すること。答を確認後、②では付帯状況の（V-て）について学習する。相談場面の文脈に沿って、「店で買って（ピクニックの場所へ）いく」などに限定した。③では、発話モデルを見ながら練習した後、できれば、今までの学習の中で見えてきた個人の生活を反映した相互交流的なやりとりをするよう促す。例えばお菓子作りが趣味の学習者なら「私はケーキ、持っていきます／つくっていきます」などと、自分自身の生情報をとりこんで会話をリアルにしてほしい。メモとりは何語でもいいが、できるだけ日本語で書くように促す。そうすれば自分の手帳に日本語でメモを書くなど実際使用の機会が広がるだろう。

③飲みものは なにが いいですか。

「Can-do 29 ピクニックの食べ物や飲み物の希望を、具体的に聞きます／言います」

カテゴリー（飲み物）の中からほかの人の希望を聞く会話。①は音声を聞く前に人物と選択肢を確認。「何がいいですか」という聞き方と「どっちがいいですか」という2つの聞き方を学習する。自分の希望の言い方としては「N がいいです」を提示した。比較、検討して1つに決める表現形式「Nのほうがいいです」は扱わない。「なんでもいいです／どっちでもいいです」もとりあげる。相手に負担をかけないように、あえて自分の希望を出さないことは日本人にとってはよくあることと思われる。しかし、「人は自分の希望を明言できる、すべきだ」という考える文化圏では、このようなどっちつかずの発話を否定的に捉えることもあり得る。学習者はどう思うか、クラスで話してみるとおもしろいだろう。食べ物や飲み物のほかに持っていくもの（シート、コップ、ゴミ袋など）のやりとりでも、何のためにそれを持っていくのか考えることで、ピクニックを気持ちよく実行するための気



配りに注目するとよい。

第12課 おいしそうですね

①食べものと あじ

ピクニックの当日、持ってきた食べ物をひろげているつもりで写真を見る。まず味を表す語を導入する。塩分が強い味を表現する語としては「しょっぱい」のほかに「からい」「塩からい」もあるが、ここではスパイスがきいている意味の「からい」との混同をさけるために「しょっぱい」だけを提示した。「すっぱい」と発音が似ているので注意。

「なにがはいていますか」のほうは、ほかの人が持ってきたサンドイッチやおにぎりなどの食べ物に興味を示して話しかけるときに使える表現。

②おいしそうですね！

「Can-do 30 よく知らない食べ物について話します」

「Can-do 32 友だちに 食べ物を おすすめます／すすめに べたえます」

ピクニック当日、友だちが持ってきた食べ物に関心を示すという場面。見た目への言及「おいしそう」のほか、自国や他国の食べ物と比較する表現など、いろいろな文化を知る人たちが集まってこそできる会話である。

①の選択肢は隣ページにあるので注意。③の会話は、食べたことがない食べ物では現実感がなく表面的なやりとりになってしまうので、その国の食べ物と結び付けられるように配慮する。「ひとつ、いただきます」は数えられるものときに使う。

「～と似てますね」「味はちがいますよ」は「聞きましょう」のスキriptでは何度も出現しているが、話題になっている食べ物について共通知識がないと会話が成立しないため、ペア会話ではオプション表現としている。「きれいですね（きれいな料理ですね）」「どんな味ですか」「黒いのは何ですか」など、会話を続けるためにほかの文を考えてみてもよい。

③もう すこし どうですか

「Can-do 31 味について簡単にコメントします」

「Can-do 32 友だちに 食べ物を おすすめます／すすめに べたえます」

ピクニックに持ってきた食べ物・飲み物を友だちに勧める、勧めを受けたり断ったりする、勧められたものの味などをコメントする、という場面。①の内容は文化学習にもなる。例えば、女性がワインを勧めるかどうか、食べ物を勧められて断るときにどうするか、どうコメントするか（口にあわなくてもほめるか）、などについて考えてみるとよい。③では理由を表す「～て」を使ってコメントするが、味覚には個人差があるので注意。表面的なやりとりにならないよう、現地の味や食べ物と結びつけられるように配慮する。勧めるときには形状によって、言い方が違うことに注意。「もうひとつ」はつまめるもの、「もうすこし」はつまめないもの、「もういっぱい（一杯）」はワインのような、グラスやコップに入



ったものである。「もういっぱい」のアクセントにも注意（音声あり）。

<生活と文化： おべんとう>

弁当は、見た目の点からも栄養の点からも食文化の比較がしやすい。また、自分で作ってみたい、日本に行って食べてみたいという興味を引き出せる。駅弁は地方の特産品や名物を弁当にしたもので、地域振興や観光開発としておもしろい。キャラ弁は食材を使ってマンガのキャラクターの絵をかいた弁当。コンビニ弁当の黒いのりは見慣れない学習者の興味をひくだろう。

トピック7 しゅちょう

このトピックは日本（外国）から来た出張者に対応するときの場面を設定した。会社の取引先の人やホームステイの日本人学生の出迎えなど、学習者の生活と結びつけて動機付けを図りたい。

第13課 たなかさんに会ったことがあります

空港に日本人の出張者を出迎えに行き、ホテルまで連れて行く場面。実用会話であり、出張者への配慮が盛り込まれている交流の側面もある。

①くうこう

語彙が場面と関連づいて（本社—空港—迎えにいきます）理解されるようにする。

②むかえに 行って ください

「Can-do 33 出迎えのために、出張で来る人や来る日について話します」

日本企業の海外支社で女性上司が若い現地スタッフに出迎えの仕事を頼む場面。

①は音声を聞く前に授業：場面とイラストの人物を確認する。問題（2）は支社のスケジュール表に出張者の予定を書き込むつもりで行う。「知っていますか」と「い」が落ちるのは話し言葉の特徴。否定形は「知っていません」ではなく「知りません」。表現として覚えるようにする。

③ようこそ、たなかさん

「Can-do 34 出迎えのあいさつをします」

空港で出張者を出迎える場面。「ようこそ」という歓迎の挨拶や飛行機の中での様子を聞いたり、疲れていないかなど気づかいを示す交流的な会話を学ぶ。

①は音声を聞く前に、p107のイラストで場面を確認したり、機内のイラストで状況を推測させたりする。名前を漢字と英語で書いた紙を見せて待ち受けているのは、空港でよく見られる光景である。「いかがでしたか」と「どうでしたか」の違い（「いかがでしたか」のほうがより丁寧）は、推測させてから補足説明してもよい。



④あした 9時半に むかえに 来ます

「Can-do 35 ホテルの部屋をチェックして、だいじょうぶか言います」

「Can-do 36 出張のスケジュールを読みます」

現地スタッフが空港で出張者を出迎えた後、ホテルに案内して、ゲストに代わって部屋の中の設備を確認している場面。外国に不慣れな人を助けるときに使える、簡単な日本語を練習する。[1]は音声を聞く前にイラストで場面を確認。タイラーは出張者の田中のためにホテルの部屋をチェックしているが、日本企業のスタッフが常にこのような行動をとるわけではないし、日本人の出張者に対してこのようにしなければならないと考える必要もない。むしろ、この内容は出張者が外国（学習者の国）に不慣れな場合どうすればその人を助けられるか、という他者理解にもとづいた配慮のある行動としてとらえてほしい。このような配慮を異文化調整能力やコミュニケーション力の一部として理解してもらうことが重要である。出張者に渡したスケジュール表は、必要な情報を得るタスク。できるだけ本物らしさを重視したので漢字が出ているが、タスクに必要な「会議」は読み方と意味を示した。「到着」「出発」は語彙導入ページにある。「～様」「～号」など意味を類推してみるとよいが、読みの目的はあくまでも情報を読みとることである。

第14課 これ、つかってもいいですか

出迎えの翌日に出張者をホテルに迎えに行き、オフィスまで連れて行き、現地スタッフを紹介したり、出張者がオフィスで仕事ができるように配慮する場面。

①オフィスとスタッフ

オフィスにいる人やあるものの語彙を導入する。このほかにも学習者の知りたい語があれば教える。「コンピューター」は、「コンピュータ」「パソコン」「PC（ピーシー）」など色々な言い方がある。

②こちらは ひしょの キャシーさんです

「Can-do 37 会社のスタッフを紹介します」

出張者にオフィスのスタッフを紹介する場面での会話。あいさつだけでなく、その後に簡単なやりとりを続けて（会ったことがある、日本語べらべら、日本語勉強中）、人間関係を構築する。このように日本語を使って簡単な仲介ができることは、海外の日本語学習者にとって現実的で意義のある言語行動と言えるだろう。

③かりても いいですか

「Can-do 38 オフィスのものを使ってもいいか 聞きます」

出張者がスタッフにコンピューターなどの使用許可を求める場面。



①で聞く会話の中では、「プリントアウトしたいんです」→「そうですか。じゃあ、これ、使ってください」と、相手の目的に応じて配慮のある対応をしている。また、「あのう、これ、コピーしてもいいですか」→「いいですよ。わたしがしましょうか」と申し出てもらう。ただの許可求めへの対応に終わらず、このような相手への配慮を示すことで、人間関係構築につながる会話が展開できる。

④お世話になりました

「Can-do 39 見送りのあいさつをします」

「Can-do 40 海外出張から帰るときにもらった、オフィスの人からのメッセージを読みます」

空港で出張者を見送る場面。

①は音声を聞いて場面を理解する。ホテルの部屋のチェックと同様、出張者に対して現地スタッフがメッセージやおみやげを渡すようなことは必ずしも習慣的に行われることではないが、ここでは、近々日本の出張予定のあるスタッフ（エドワード）が短いメッセージを書いた。せっかく知り合った田中との人間関係を継続させたいという気持ちの表れともとれる。それについてどう思うか、話してみる。やりとりは単純なので、ペアで動きをつけてやってみるとよい。

<生活と文化： 日本の会社>

海外で日本人と直接的に接する機会は少ないが、日本製品は身近にあたりする。学習者はふだん、それらと日本を結びつけて考えていないかもしれないので、日本製品に対する知識やイメージを共有する。日本を身近に感じることができるかもしれない。また、「製品と国のイメージ」について社会的な関心を深めたり、同じものを見ても人によって異なる見方があることに気がつくとおもしろい。

トピック8 けんこう

職場や学校などで体調の悪そうな同僚、友人を気づかって声をかけたり、日々の健康法について話したりと、日常的な場面での言語行動を取り上げる。このトピックは、健康に気をつけている世代にとって特に興味のもてるトピックと思われるが、深刻な病気など個人のプライバシーに踏み込むことはしない。日常的な場面での軽いやりとりを想定する。

第15課 たいそうするといいですよ

①かおと からだ

身体語彙が多いが、ここですべてを暗記する必要はない。p117 上の1～3は、イラストを見てどんな状態なのか、意味を確認すること。



②どうしたんですか

「Can-do 41 友だちに体の具合を聞きます／答えます」

職場の同僚や友だちの体調を気遣って、聞いたり答えたりする場面。短い会話だが、具合の悪そうな人に何か声をかけたいときの一言として練習しておきたい。ちなみに日本人には肩こりの人が多いと言われているが、学習者の国ではどうか。

③こうやって かたを まわして ください

「Can-do 42 簡単な体操のしかたを聞きます／言います」

自分で日常的に実行している軽い運動を紹介する場面。教室で実際に体を動かしながら、体の部位のことばや運動方法を表す表現を学ぶのがポイント。①は新規に導入する語が多いので、音声を聞く前にイラストを見ながら、意味を確認しつつ体を動かしてみる。実際に体を動かしながら言うことが大切。③では簡単な体操ができる人がそれを紹介する。他の人は指示に従って体を動かす。指示通り体が動かせればよい。四肢を動かさなくても、目や手の体操などでもよい。

④この くすりを 飲むと いいですよ

「Can-do 43 体にいいことをすすめます」

国や地域の生活習慣として昔から行われてきた健康法や個人的な健康法を紹介しあう場面。①は音声を聞く前に、(2)のイラストを見て、どんなアドバイスをするか、推測する。体調とアドバイスの2つを聞くので、複数回聞かせる。アドバイス全体の文は「ねるまえに、ぎゅうにゅうを飲むといいですよ」だが、②「発見」では「V-るまえに」と「V-るといいですよ」の2段階に分けたので注意。「(Nの)まえに／あとで」は第8課で既出。③は軽い不調を訴える程度の内容にすること。深刻な内容だと病院に行くという流れになりがちなので、そうならないように注意する。アドバイスの内容は人や文化によってもいろいろあるので、日本語でどう言うかは必要に応じて教師が教える。「はやくよくなるといいですね」は、このような場面では定番。相手への気遣いの表現として使ってみてほしい。

第16課 はしったりおよいだりしています

①けんこうてきな せいかつ

健康のために日常的に行う活動や生活習慣について、語彙や表現を確認する。外来語（ジョギング、ウォーキング、など）の発音に注意。

②はしったり およいだり しています

「Can-do 44 健康のためにしていることを簡単に話します」

日々の健康法について話す交流会話。健康法について、何をどれぐらいしているか話す。共通点（同じスポーツや生活習慣など）を知ることで相手への親近感が生まれる。



- ①は音声を聞く前に「週に～回」（10課で既出）「週末」「毎日～時間」の意味を確認する。
- ③「発見」では動詞を2つ使って「V1たり、V2たりしています」としているが、動詞は1つでもよい（「Vたりしています」）ので、この点を補足説明する。④「ペアで話しましょう」で大事なことは、自分の健康法について話すこと。その表現形式の一つとして「～たり（～たり）しています」を使う。

③けんこうアンケート

「Can-do 45 健康についての簡単なアンケートを読んで答えます」

「Can-do 46 アンケートの結果を簡単なことばで発表します」

自分の生活習慣を見直すために、健康法についてのアンケートを読んだり発表したりする。

- ①は、アンケートの(1)～(4)を読んで自分で答える（個人作業）。アンケートの選択肢（よくする、ときどきする、しない）に注目し、丁寧形と普通形の2種類の言い方があること、名詞修飾の場合は普通形を使うことを理解する。②のスク립トはアンケートの集計結果の報告で、そこで必要な表現（名詞修飾）を③で確認する。④はアンケート結果をグループ内でまとめて、結果を簡単に板書するなどして発表する。発表のための準備時間を与えること。

<生活と文化： けんこうほう>

ラジオ体操は日本では国民的な体操で、ほとんどの日本人ができる。学校だけでなく、職場や地域でも日常的に行われている。このほかにも「〇〇体操」は多い。

健康器具の写真3枚は、よく見て使い道とその背景にある現象（高齢化社会や健康志向）を考えるとよい。

トピック9 おいawaii

お祝いに関係するモノ（贈り物）と、コト（どんなことをするか）をめぐって展開する会話を学習する。異文化理解の視点からも様々なことを考えてみてほしい。

第17課 たんじょう日にもらったんです

①プレゼント

お祝いをする機会とプレゼントとして代表的なものの語彙。「出産（しゅっさん）」に関連して「生まれます」が音声で入っている。（2）のプレゼントにあげるものは個別のもの名前を導入し、ものの用途（部屋に飾る、着るなど）に分類してみる。

②そのネックレス、すてきですね

「Can-do 47 友だちの持ち物をほめます」



「Can-do 48 自分の持ち物について、いつ、だれにもらったかなどを簡単に話します」

相手の持ち物や身につけているものに関心を示して、人間関係をつくる交流会話。①の選択肢は前のページにある。聞く目的は、入手方法として「もらう、作る、買う」のいずれかがわかること。「もらう」を「あげる」「くれる」で言い換える練習はしない。なお、「くれる」は本書では扱わない。②で取り上げる「～んです」は、言われたことに対して説明する意図を示す文末表現。ここでは入手方法を説明するので、文法枠内の 3 種の動詞（た形）のみ。③の会話練習は、ものについて言及する（ほめる、コメントする）ための表現をいろいろ提示している。ものに合わせて使い分ける。

③しごとで つかう ものを あげます

「Can-do 49 自分の国のプレゼントの週間について簡単に話します」

個人や国（文化）のプレゼントの習慣について話す交流会話。実際にだれかへのプレゼントの相談をするときには、実用会話にもなる。

①は音声を聞く前に、プレゼントをあげる機会と選択肢を確認する。自分だったら、それぞれの機会にどんなものをあげるか言ったり、人物と選択肢を確認して、答えを推測する。プレゼントを言うときに具体的なものの名前だけでなく、②では用途で言う言い方「部屋に飾るもの」などを練習するが、①の範囲を超えないこと（「しごとでつかうもの」→「ベんきょうでつかうもの」ぐらい）。③では、個人の多様な経験や価値観、プレゼントのアイデアが出てくるとおもしろい。「～のおいわいに（～のとき）、どんなものをもらいましたか」と聞いてもよい。

第 18 課 パーティーがいいとおもいます

①おいわい

お祝いの機会は L17 で語彙導入した。ここでは「ひっこし」が新しい。お祝いにはプレゼントの他にパーティーや食事などをすることもある。お祝いを考えるときには相手の気持ちや状況にも配慮するので、その表現も導入する。

②らいげつ、あべさんが けっこんします

「Can-do 50 友だちのお祝いを何にするか話します」

身近な人のお祝いについて相談するときの実用会話。

①の選択肢は隣のページにあるので注意。「～と思います」「～と言っていました」は、意見とその根拠を言うときに使う。③はクラスのだれかのお祝いを想定して練習するのもよい。そのときには意見の根拠が具体的にせるとよい（「～が好きだと言っていました」など）。

③おしあわせに！

「Can-do 51 結婚のお祝いのカードを読みます」



「Can-do 52 結婚のお祝いのカードを書きます」

身近な人の結婚祝いの寄せ書きカード（自筆で書かれたもの）を読む。学習者の国ではお祝いの寄せ書きをするかどうか、するとしたらどんなことを書くか話してから読む。「いつまでもおしあわせに」や「あたたかい（あかるい）かていをつくってください」など定型的な表現として紹介する。書くタスクとして「ごけっこんおめでとうございます。+ひと言+名前」を自分で書いてみる。このようなカードへの記入は、自筆で書く。

④あけても いいですか

「Can-do 53 プレゼントをもらってお礼を言います」

お祝いのプレゼントを渡す／受け取るという場面。場面に即して定型表現を言えればよい。

①は音声を聞く前に、お祝いのプレゼントを渡すとき、何を言うか話す。ここでは「ごけっこん（しゅうしょく…）おめでとうございます」などは省略し、プレゼントがだれからかを聞き取る。「～のみんな」という言い方はグループでのお祝いであることを示している。もらった人はお礼を言い、その場で包みを開けて、感想を言うこともある。ここで聞く会話は3問ともすべて贈り物を開けて見ているが、必ずそうするわけではないこと／そうしなくてもいいことを補足説明する。プレゼントをもらってすぐにその場で開ける／開けないのはなぜか、考えてみてもよい。②は会話例のように、ロールプレイ的に練習する。箱や紙袋に何か入れて実際に受け渡ししてもよい。

<生活と文化： プレゼントのおくりかた>

写真を見て、プレゼントの包み紙、包み方にも工夫があることに気づく。お祝いの機会によっては、また人間関係によっては現金を送ることもあるが、用途ごとに異なる特別な封筒（ご祝儀袋）を使ったり「ふくさ」という小さいふろしき状の布に包む。お祝いの気持ちの表現方法を考えることができるとよい。学習者の中に日本人との交流経験がある人がいれば話してもらおう。写真にはないが、もらった人は包み紙を丁寧に開けることなどもおもしろいかもしれない。